

## 水質保全施設の運用規則策定目指し熱く討論

第8回 三春ダム水質対策検討会開催

第8回三春ダム水質対策検討会が、3月20日管理所会議室において委員全員出席のもとで開催されました。

委員は東北大学教授の野池委員長をはじめ、日本大学の中村教授、国総研の安田河川環境研究室長、土研の鈴木上席研究員、田中上席研究員、東北整備局の穴戸河川情報管理官、伊藤三春ダム管理所長、ダム水源地環境整備センターの富岡部長の皆さんです。

冒頭に検討会の組織の充実を図るため、昨年7月から課題とされていた会規約が事務局から提案され一部修正のうえ承認されました。

今回の主な検討内容は、貯水池内の水質保全施設の運用方法についての評価を平成13年度の水質状況から判断して頂く事と、前ダムの2カ所で行ったマイクロバブルや高濃度酸素溶解水を用いた貧酸素改善実験結果の評価です。

委員の方々の評価は「今年は洪水の回数が少なく流量が大きくなかった事を加味しても水質悪化の状況は無く、保全施設の運用は適切である。」

実験については「効果は見られるが、より箇所の選定などに工夫が必要である。」との回答を頂きました。

また平成14年度は三春ダムの水質対応の業務検討として、保全施設の運用規則策定や深層曝気効果の検討、流域汚濁負荷調査を中心に行う事が了承されました。



## 流域の畜産は一体どうなってしまうのか？！

第5回 大滝根川流域勉強会

流域勉強会が3月15日(金)自然観察ステーションで約20名の参加者のもと「田村地方の畜産」についての講演や討論が行われました。

講師は田村地方の畜産に大変詳しい、元農水省家畜衛生試験場東北支場長で農学博士であり、獣医師でもある照井信一氏にお願いをしました。

まず照井氏により「田村地方の畜産の現状と課題」の演題で、①畜産とはどんな産業であるか

- ②飼養方法の歴史的変化
- ③環境汚染対策としての家畜排泄物処理
- ④ふるさとの河川環境を守る活動、などについて



て、解りやすく農水省時代の経験を踏まえた講演を頂きました。

「田村地方の家畜は元々は農耕用として飼われていたが、田村の高原を活用した健康で良質な牛を育てようと、草食中心の公共育成牧場が多く作られるようになった。現在17,500頭(乳牛2,540頭、肉牛14,940頭)が飼育され、他にも養豚や養鶏が盛んである。

しかし生産性の向上や経済効率から、輸入穀物飼料や肉骨粉などを用いる畜舎飼育タイプに変化しつつある。さらに一昨年からのBSE(狂牛病)問題で畜産農家は大変な痛手を受けている状況にある。平成11年11月に「家畜排泄物管理の適正化及び利用促進の法律」が施工されたが、堆肥の活用システムや頭数に規制の緩和処置があるなど環境対策としてはまた問題がある。」

講演後の討論では、BSE(狂牛病)や遺伝子組み換えの穀物飼料などの安全生についてや、地域の産業と環境汚染問題をどう考えていくかなどが討論されました。

次回の勉強会は、4月12日(金) 13:30～ 自然観察ステーションで、テーマ「大滝根川流域の歴史や文化」です。

# 5年目の三春丸、順調に航行中！

～平成14年4月より、次のような組織で管理を行います。～

<p>所長 伊藤 尚敬</p>	<p>総務係</p>	<p>総務係長 主任 事務官 運転員 運転員 庁務員 庁務員 情報連絡員 情報連絡員 情報連絡員</p>	<p>渡辺 達※ 柳内 光代 高橋 公平 吉川 信一 伊東 三夫 滝波 しげ子 山浦 百合子 上石 一郎 村田 及三 益壽 幸男</p>	<p>・工事の契約やその代金の支払い、また働く職員のお世話をします。 管理所、宿舍の管理を行ってます。 24時間体制で機器の監視を行います。</p>
	<p>管理係</p>	<p>管理係長 技官 技官 管理補助員 非常勤職員</p>	<p>高橋 隆 高原 克己※ 矢倉 広和 戸村 弘勝 菅野 風彦</p>	<p>・さくら湖の状況を常に監視し、水位の調整を行います。ダム本体や貯水池内の点検を行い、安全なダム管理ができるようにします。また、洪水時には、放流ゲートの操作を行うとともに、関連機関と連携を取り、被害の軽減につとめます。堤体周辺公園の管理も行います。</p>
	<p>水質係</p>	<p>水質係長 管理補助員 管理補助員</p>	<p>佐々木 剛※ 菅原 秀輝 穴戸 円香</p>	<p>・定期的な水質の検査や降雨時の濁水調査、自動監視装置による水質変動の確認を行います。また、水質保全設備（曝気装置等）の操作管理を行っています。 広報・広聴担当係として、広報誌の作成、ダム施設案内も行っています。</p>
	<p>電気 通信係</p>	<p>電気通信係長 技官 技官 管理補助員 非常勤職員</p>	<p>西岡木 隆夫 大内 経※ 西村 彰仁※ 赤石 裕之 深谷 志穂</p>	<p>・ダムの水を流す設備（ゲート、バルブ）の点検と整備、管理用発電機の管理、その他ダムの管理に関わる通信設備や車両の整備を行います。</p>

※は14年度4月期転入者です。前任者同様、宜しくお願いします。

## 三春ダム管理所では、 以下のようなポイントで平成14年度のダム管理業務を行います。

- 適正なダム管理の継続**  
 濁水の被害軽減等といった、三春ダム本来の目的を行います。  
 今年度からは、郡山東部地区と三春南部地区への供給が始まります。  
 また、管理用発電についてはより一層効率的な発電をします。
- 水質保全施設の機能充実**  
 前ダムに堆積している窒素やリンの吸着した土砂を撤去し、前ダム本来の効果を発揮させます。
- ダム貯水池周辺の防災監視機能の強化**  
 IT防災基盤の整備促進。その一環として、監視カメラを設置し、より迅速な情報提供をします。
- 地域づくりを支援（水源地域ビジョンの策定）**  
 ダム湖周辺の豊かな自然を利用して、公園施設の設備やイベント開催など、ハード・ソフト両面の支援を行い、上流域と下流域の連携・交流が深まるようなバランスのとれた流域圏の発展を図ります。



## 3月のダム見学

3月8日（金）に韓国のダム技術者の方々が、三春ダムの見学に来ました。



←最新のダム技術を調査するため、さくら湖を訪れて下さいました。

（左・漕艇場、下・展望台）



言葉の壁はあったものの、皆さん笑顔で次の見学地である田園生活館へ向かわれ、一安心しました。  
コミュニケーションって難しい！！

## 資料館からのお知らせ

資料館1階では、3/30（土）からGWまでの約1ヶ月間『三春物産展』を開催しています。

2階では引き続き『児童図画コンクール』の受賞作品を展示しています。



← 4月4日に満開した滝桜（写真左）  
※撮影 4月3日（水）

**三春ダムの桜はちよっぴり遅め……。  
お花見シーズンはこれからです。**

## 編集後記

いよいよさくら湖に春がやってきました。

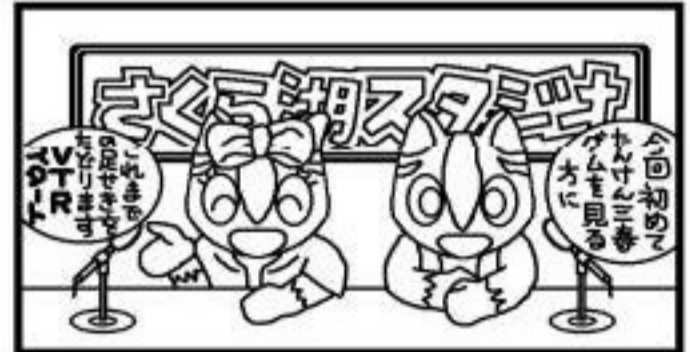
今年は例年になく暖かさで、この新聞が出る頃は滝桜も満開でしょう。

春は別れと出会いの季節。管理所スタッフも5名が入れ替わり、新メンバーで決意を新たに頑張ります。さくら湖管理ニュースもますます充実する所存です。今号よりタイトルも一新しました。変わらぬご支援お願いいたします。

（伊藤）



はじめて見る方に



編集・発行 国土交通省  
東北地方整備局  
三春ダム管理所

〒963-7722

福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内  
403-4

TEL 0247-62-3145

FAX 0247-62-3170

ホームページ

<http://www.thr.mlit.go.jp/miharu>